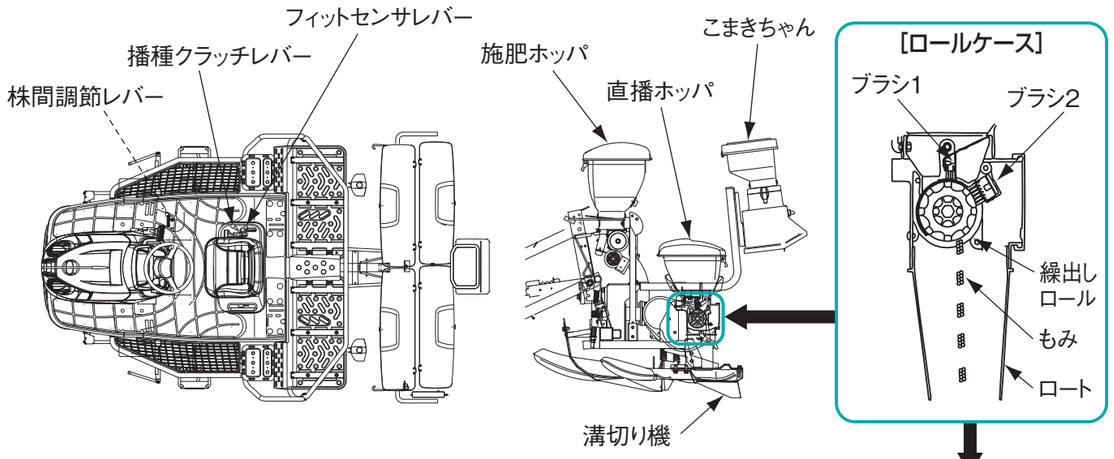
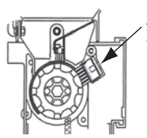
WP60D-TC
取扱いのポイント Kubota

※この取扱いシートは取扱う上でのポイントのみ説明しています。詳細は取扱説明書を参照してください。

各部の名称





条播作業するときは、この第2ブラシを外して播種。

点播／条播　切替要領

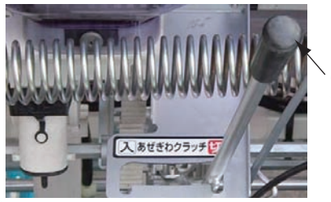
条播の場合は、第2ブラシを外して播種します。
※外し方は、後述の「第2ブラシの点検、交換要領」を参照。

播種クラッチの操作

播種クラッチレバー

播種の開始・停止操作、マーカ操作ができます。

重要　播種開始時は急発進、急加速はさけてください。（施肥ムラを防止するため。）

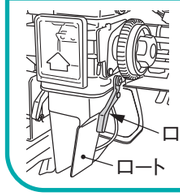


あぜぎわクラッチレバー

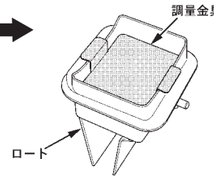
２条ずつの播種の入／切ができます。

重要
＊直播では２重撒きは減らした方が良いですが、必要以上のあぜぎわクラッチ操作は避けて確実に播種してください。
＊クラッチの自動復帰や戻し忘れの警報機能はありません。つど、確実に手動で入／切してください。

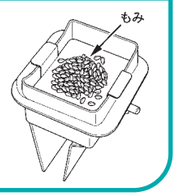
播種量調節の要領１



ロートを外し、上に調量金具を組む。
※調量金具は標準付属品です。

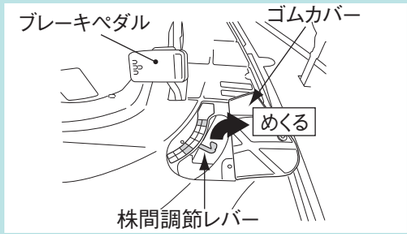


ロートを再組付けして調量作業を実施した後、ロートを外してもみ数を量ります。



播種量調節の要領2

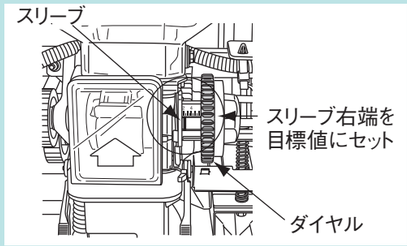
播種量は、(1)本機の株間と(2)繰出しロールの開度を(3)の目安を参照して調整します。



(1)株間の切替方法

ブレーキペダル後方の左図の調節レバーで切替えます。

・点播の株間は60株／3.3㎡以下を推奨します。
・条播は80株／3.3㎡に固定して使用します。



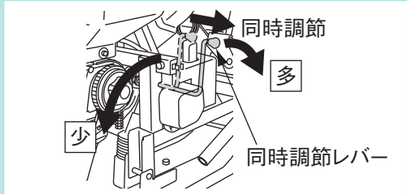
(2)ロール開度の調節方法

『調節方法1』‥各条ごとの調整

・調節ダイヤルを回転させて、スリーブの右端での目盛位置を基準に合わせます。
　補足　＊ダイヤルを「0.3」増減する事で、約１粒増減します。

『調節方法2』‥全条の同時調整

・直播機右側の同時調節レバーを外に引きます。
・この状態で同時調節レバーを回すと、全条のダイヤルを同じ目盛分だけ調節できます。



重要　＊ダイヤルは、値を増やす方向で調節します。（減らす側に回すと損傷する可能性があります）減らす場合は、一度もみを抜いてください。

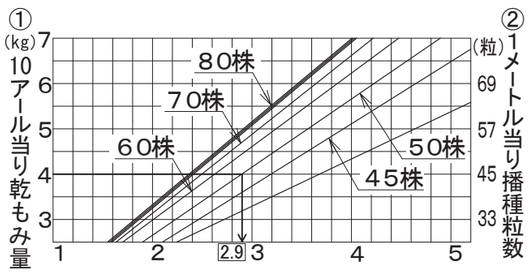
(3)調量設定の目安

『点播の場合』

下記①～③を指標に、右の図表を参照して開度の設定と検証をします。
①10アール当たりの乾もみ量
②１m当たりの播種粒数
③１株当たりの播種粒数

『具体例』
①10アール当り4kg乾もみを播種する目標で、50株/坪（株間21cm）で播種する場合。
　⇒開度は右グラフの通り2.9にします。
この場合、
②1m当たりの粒数は、グラフの通り45粒となります。（実測時の目安に活用）
③1株当たりの粒数は、開度2.9なので右表の通り、約9粒です。

参考　コーティング比‥乾もみ:鉄=1:0.5
乾もみ1000粒重‥27gでの事例



③1株粒数

ロール開度目盛

粒数／株	5	6	7	8	9	10
ロール開度目盛	1.6	1.9	2.2	2.5	2.9	3.2

『条播の場合』　株間は80株に固定し、右グラフの①、②を指標に開度調整、繰出し検証します。

重要　＊もみの形状、コーティング比や車速などによって播種量は変化します。調量時は必ず「実作業の速度で５～10m走行繰出しをして、播種粒数を検証し、②の値とズレが大きい場合は再度、調整してください。

フロート感知調整の要領

フィットセンサレバーで、ほ場に応じて「軟⇔硬」を調整します。

補 足

＊右図のピンの位置変更で更に敏感、鈍感にできます。

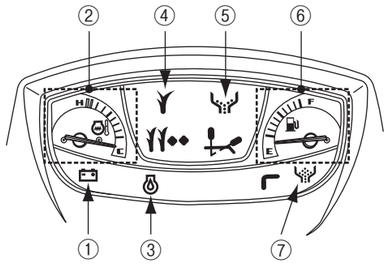
溝切り機

サイドフロートに溝切り機を装備。

警報

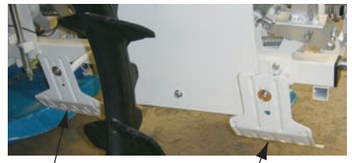
①充電、②水温計、③オイルランプ、④もみ切れ警報、⑤施肥残量警報、⑥燃料計、⑦施肥詰り警報を装備。

※④⑤⑦はブザーでも警報します。
※①～⑦以外の位置の警報は装備していません。



整地板

・内整地板は標準装備。
・外整地板はオプション。



掃除・メンテナンス

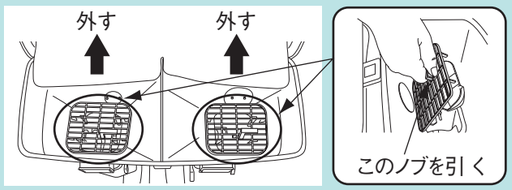
種もみの固着を防止するため、作業後の種もみの排出、各部の定期的な清掃を下記要領で行なってください。

残もみ排出の要領

①ロートを外します。
ロックレバーを解除して外します。
※替わりに、もみを受ける容器を下に置きます。

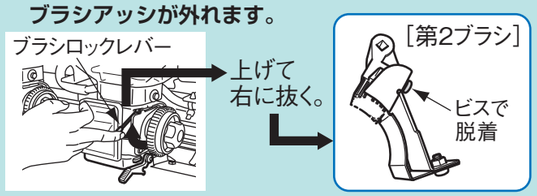
②第2ブラシのロックレバーを解除します。

③ホッパ底部の第1ブラシを外して排出します。
ホッパ下の網を抜き、右図のノブを引くとホルダとブラシの一体部品が外れます。



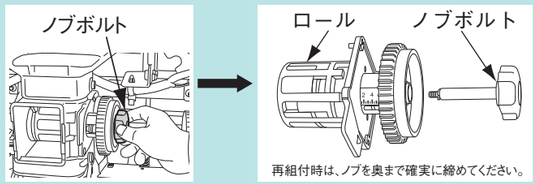
第2ブラシの点検、交換要領

①ロールケース後面のカバーを上に抜きます。
②ブラシロックレバーを最上まで上げ、右に引くと、ブラシアッシが外れます。



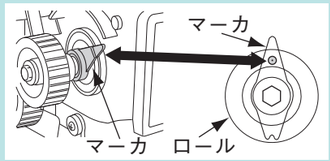
繰出しロール脱着要領

ロールケースのノブボルトを緩め、ロールを抜きます。



重要

＊ロール側面の窪みとケース外側の矢印の向きを合わせて組んでください。



施肥機

施肥量調整

右側ホッパにある右図ラベルの要領で調整します。

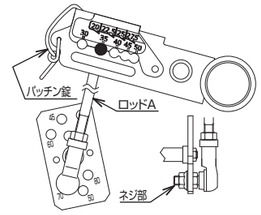
繰出しテストはロールギヤ30回転分を測定し、取扱説明書の目標値の一覧と比較検証します。

施肥量調整方法

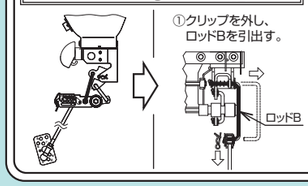
注意 施肥量を調整するときは、ホッパの肥料を排出してから行って下さい。肥料の落下及び施肥量調節の操作性が悪くなる恐れがあります。

①本機の株数と同じ株数の位置にネジ部を2本のスパナでしっかり締めて下さい。
②パッチン錠を外し、10a当たりの施肥量（20～50kg）にロッドAを合わせパッチン錠を止めます。

この施肥量はクボタ春風肥料T333を使用した場合の目安です。作業前には取扱説明書に従って繰出し量の確認を行って下さい。



20～27.5kg／10aの場合



上記調整に加え、実施下さい。

PR192-95352

補足

＊繰出し量の標準設定範囲は20～50kg/10a。(別途、少量セットの対応が可能です。取扱説明書の施肥量の調整を参考にしてください。)
＊増量ロールもオプション採用予定。(繰出し量を約 1.4 倍)
＊施肥量は倒伏しやすい品種は田植作業より少なめ(～ 90%)、それ以外は同等が一般的。

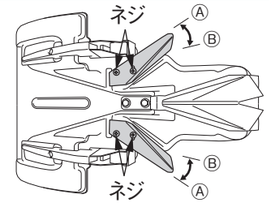
一条止めと残肥排出

条止めシャッタ
↓
ここに挿して止める

残肥排出時は、ここに袋を掛けて肥料を受ける。
付属の残肥排出ホースを利用して排出することもできます。

覆土強さの調節

覆土板の出代を Ⓐ～Ⓑ の範囲で調節。



こまきちゃん

除草剤散布機「CS−30TC」を標準装備

重要 ＊直播同時用の除草剤を使用してください。

出荷時は、散布機は別梱包されています。
右図の状態にフレーム、配線をセットしてください。

目皿は3kg／10a用を標準装備しています。(右図形状)
下式、及び右の目安表を参考に調量してください。
※1kg/10a用の目皿も付属品に入っています。

『調量基準』

☆繰出し量の基準値（g）は下式で計算できます。

$$\frac{\text{目標散布量(kg/10a)}\times\text{条数}\times\text{条間(cm)}\times\text{走行距離(cm)}}{10000}$$

ボリューム目安例

株間(cm)	3kg/10a 6条
14	2.5
16	2.9
18	3.3
21	3.8
24	4.4

重要

＊直播作業では、ほ場について次の注意をしてください。
・休耕田や雑草の多いほ場は避け、水管理しやすいほ場を選ぶ。
・代かきは均平を重視し、少し硬めのほ場にする。(代かき後、移植のときより半日～1日長く放置するのが一般的)
＊深田や粘いほ場での機体バランスや、種もみの流れを安定化するため、もみの補給はホッパの基準ラインまでにすることを推奨します。